

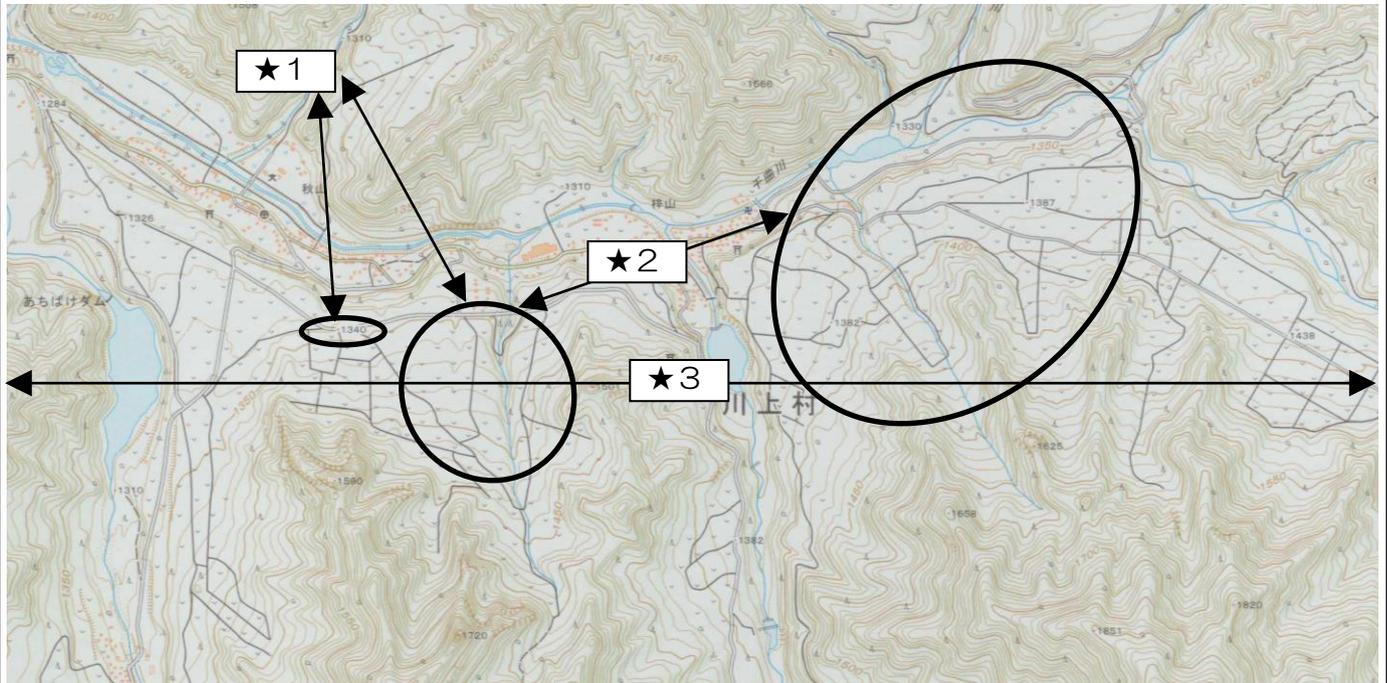
## 授業で使える当館所蔵地図

No.42 『2万5千分の1地形図 居倉』

発行年：2016（平成28）年

サイズ：46×78cm

作者：国土地理院



国土地理院 地形図を一部加工

\*この地図は、国土地理院の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。

(承認番号 平29情複、第1302号)

### 【解説】

地形図を読み取ることによって、調査する地域の土地利用や地形、交通などのさまざまな特色をつかむことができる地図資料である。2万5千分の1や5万分の1の地形図は、他の地図の基本となり、国土地理院が発行している。縮尺、方位、等高線、地図記号の4点を理解して読み取るとよいとされている。中学校地理的分野「日本の諸地域—中部地方—」で長野県川上村のレタス栽培の様子が教科書等でも取り上げられており、地形図を活用することで、その理解が深まると考えられる。

Point（生徒が読み取る視点を中心に）

#### ★1 川上村の標高

（等高線に着目し、雨温図と関連付ける）

地形図の川上村の等高線を見ると、1500m級の山々に囲まれている盆地になっていることが分かる。

そこから、教科書等に掲載されている雨温図と関連付けることで、中央高地の気候となっていることを理解させる。そして、夏でもレタスをたくさん出荷できる環境であることが分かるようにする。

等高線の数字に着目し、地形を読み取る



#### ★2 川上村の土地利用

（地図記号、自然環境に着目）

★1の視点から、地図記号に視点を移すと川上村の盆地の土地利用は、畑（v）に偏っていることが分かる。そして、教科書の写真や記載と関連付けるレタス畑であることが分かる。また、畑の近くには川が流れており、水が得やすいことが分かる。

そして、畑の周囲には道路が位置しており、輸送にもつながっていることが分かる。

地図記号、川、道路の位置を読み取る



★3 レタス畑の大きさ  
(縮尺, 方位に着目)

地形図上の距離を測定し, 実際の距離を求める



レタス畑の広がり具体的な数値で表すと, 地形図上で(レタス)畑の地図記号は東西に約30cm広がっている。実際の距離に換算すると, 約7.5kmものレタス畑が広がっていることを地形図と具体的な数値をもとにして, 理解することができる。

【用語について】

• 地形図

5万分の1, 2万千分の1などの縮尺で表される地形を表した地図。土地の起伏・形態・水系などの自然及び人工物の平面位置と高さを測量した地図で, 地形は等高線によって表れている。

• 長野県川上村

川上村は全国有数の高原野菜の生産地となっており, 標高1,100m~1,500mの立地条件を生かし, レタス出荷量は日本有数となっている。村がレタス栽培を開始したのは, 1955(昭和30)年からである。

【利用の例】

中学校地理分野「日本の諸地域—中部地方—」において産業を中核として, 川上村のレタス栽培を具体的に取り上げての事例を想定している。学習のねらいとしては例えば, 「川上村が日本一のレタスの生産量となっている理由を追究することを通して, 川上村のレタス栽培が盛んなのは, 自然環境, 交通網が関連していることが分かる。」などが考えられる。

※「東京書籍 新編 新しい社会 地理 P222, 223」を授業で取り扱う時の授業を想定している。

【地形図を利用する前段階】

教科書P222②の資料から, 長野県が兵庫県と茨城県とは異なり, 夏場の出荷量が多いことをつかみ, 課題を提示する。(その中でも, 具体的に上げる地域は, 長野県川上村とする)

○⑦地形図の川上村の等高線を見ると, 1500m級の山々に囲まれている盆地になっていることが分かる。

そこから, 教科書等に掲載されている雨温図と関連付けることで, 冷帯に近い中央高地の気候となっていることが分かる。

○⑧地図記号に視点を移すと川上村の盆地の土地利用は, 畑(▽)に偏っていることが分かる。そして, 教科書の写真や記載と関連付けるレタス畑であることが分かる。

○⑨畑の近くには川が流れており, 水が得やすいことが分かる。そして, 畑の周囲には道路が位置しており, 輸送にもつながっていることが分かる。

○⑩レタス畑の広がり具体的な数値で表すと, 地形図上で(レタス)畑の地図記号は東西に約30cm広がっている。実際の距離に換算すると, 約7.5kmものレタス畑が広がっていることが分かる。

【参考文献】

「図説 地図辞典」昭和59年  
「川上村 村勢要覧」

